

愛光会だより

第106号

桜島学園 和光学園 桜町学園 フレンドリーホームいいぐま
総合サポートセンター ラン おひさまキッズ 福祉総合相談支援センター あい
令和2年1月1日発行 発行・編集 社会福祉法人 愛光会

鹿屋市海道町 729 番地 6 TEL 0994-46-2821
FAX 0994-46-2825
<http://www.aikohkai.com/>



令和になり、初めてのお正月を迎えることができました。
「令和」が平和で穏やかな時代になりますように、みんなで
協力して作りました。
(おひさまキッズ)

「ある老兵のつぶやき」その三

社会福祉法人愛光会 理事長 指宿 興一

明けましておめでとう御座います。

皆様方には、令和二年の新春をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

愛光会傘下の事業の利用者様及び役員一同は平穩無事に年を越して、元気に新春を楽しんでおります。これも皆様方のご理解とご支援の賜物と厚く感謝申し上げます。

昨年は、五月一日「平成」時代が終わり、「令和」時代がスタートして、十月には令和天皇即位を内外に宣明する「即位礼正殿の儀」等も滞りなく終わり、国内外から祝賀が寄せられたところです。その「令和」に込められた「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という願いが達成されることを切に祈念いたします。

「ラグビーワールドカップ二〇一九日本大会」は、日本代表チームは世界強豪チームのアイランド、スコットランドを撃破してベストエイト、決勝トーナメントへ進出しま

したが南アフリカに惜敗しました。日本代表チームのメンバーには、ニュージーランド、南アフリカ、韓国等七か国出身の選手もおり、国同士の垣根を越えて、ひとつのチームとして戦う姿が印象的でした。

そして、ルールに従い正々堂々と戦い、ノースサイドの笛が響くとお互いの健闘を称え合うラグーマンとそのサポーターの姿が全世界に感動を与えたところです。このような状況が「ラグビーワールドカップ二〇一九日本大会」を通じて、

世界に拡散して近い将来、争いのない平和な世界が実現する期待感が増しました。

一方、自然災害では、台風が例年とおりの発生状況でしたが、日本に上陸もしくは重大な被害を与えた台風は七個をかぞえました。とりわけ

「台風十八号」は十月六日関東地方に上陸し、さらに十月十二日から十三日にかけて関東、北陸地方を直撃した「台風十九号」は、日本近海の海面水温二十七℃以上の海域を

進み、中心気圧九百四十五ヘクトパスカル、最大瞬間風速六十メートルと風速二十五メートル以上の半径二百キロメートルの暴風圏を持つ勢力と巨大な積乱雲を引き連れて、伊豆半島付近に上陸しました。

その後、横浜、東京を通過し水戸から太平洋に抜けました。その被害状況は、千葉県の「台風十八、十九号二度に渡る暴風被害もさることながら関東、東北地方の年間降雨量の三割程度が一、二日に降り、五十年から百年に一度の確率で起こる豪雨に襲われました。長野県、宮城県等七県の河川六十六カ所で決壊し、その他越水、浸水カ所が多数あるとのこと。十一月一日現在、被害全貌は把握されていませんが、未曾有の台風災害になることは、確実でしょう。これからは一千年に一回の確率で発生する「降雨量」が五年から十年に一回の確率で発生すると認識することが必要な時代となったと考えています。

各地の被災された方々にお見舞いを申し上げるとともに何らかの復興に向けた支援を継続的に届けられるように努力したいと考えています。

さて、前号に引き続き「地

域共生社会のあり方」について考えてみたいと思います。

「地域共生社会」その二 前号では、国は「地域共生社会」の実現のために平成二十八年六月二日「ニッポン一億総活躍プラン」、「地域共生社会の実現に向けて（当面の改革工程）」を公表しました。その「地域共生社会」の必然性とその概念を前号において紹介しました。

今回は、その「地域共生社会の在り方」を自身の主観的考え方に沿って可能な限り具体的かつ明確に目に見える形で想定して説明します。

「私説地域共生社会のあり方について」

一、初めに 国の想定した「地域共生社会構想」を参考にしますが、私自身のこれまでの七十九年間の人生経験からくる「人生観」、約三千数年間の社会福祉に携わった「福祉の体験」を通じて認識している「社会福祉の現況と未来」をベースとして考えてみたいと思います。もとより偏見に満ちた一人よがりの意見とは思いますが、先の見えた、ある老兵のつぶやきとしてご容赦お願い致します。

二、「人生観」

私は、昭和十五年生まれで、いわゆる「戦前派世代」に属していますが「戦争」そのものは父の郷里（垂水市牛根境）での疎開生活と終戦日（昭和二十年八月十五日）に志布志湾から国分へ撤退する戦車のキャタピラの音をかすかに記憶しています。そのようなことから、「戦争」そのものの残酷性の記憶は殆ど記憶にありませんが、その後数年間の「ひもじさ」は今でも鮮明に蘇ってきます。週一、二回程度の学校給食のコッペパンや脱脂粉乳がその時代の最高のご馳走だったことを今でも懐かしく、ほろ苦く思い出されます。その後、先の戦争ですべて失われた国土がほぼ復興した時期が、一九六四東京オリンピックの開催と重なっています。

今年の「二〇二〇東京オリンピック開催」にはある種の感慨を催してきます。一九六四東京オリンピック開催以来、日本は急激な経済発展を遂げて、一時期にはアメリカについて世界第二位の経済力を持つまでに成長しました。

その後、中国に抜かれて第三位に甘んじていますが、その活発な経済活動は豊かで良

質な食品やその他の生活必需品が溢れ、住宅やマンション等多様な居住空間の充実、それに必要なテレビ、洗濯機等電気製品の出現、新幹線、飛行機やマイカーの普及による交通手段の発展、インターネットやスマートフォン等コミュニケーションによって豊かな生活をもちました。そのようにひたすらハード面の幸福追求に邁進した結果、将来の世代に非常に達成困難な課題を残したように思えます。

その第一は、第二と関連しますが、「恒久的な世界平和の達成と維持」です。第二次世界大戦の終結後、旧ソ連を中心にした社会主義国家とアメリカを中心とした資本主義国家との「冷戦」、「朝鮮やベトナムでの戦争」等を経て、「イラク戦争」やイスラム過激派「アルカイダ」による「ニューヨーク同時多発テロが引き起こした「アフガニスタン紛争」等争いが絶える日はありません。「国際連合」はありますが、多様化した国際関係や大国同士が反目し、そのシステムが十分に機能するには「国際連合」の大改革が絶対必要でしょう。

その第二は、第一の延長上にある「核兵器の廃絶」であろうと考えています。現在、アメリカをはじめ多数の国が相当量「核兵器」を所有し、これから開発しようとしている国があります。聞くところによると世界を数度壊滅できる量だそうですね。もし一回でも使われたら現在の世界情勢から報復合戦状態となり、人類を含む全世界の生命体は、確実に滅亡することでしょう。

その第三は、「地球温暖化対策」の遅れによって「地球全体の自然の生態系」のバランスが少しずつ崩れていることです。無秩序な開発による樹木の伐採、山林地区の造成や海岸の埋立による影響もさることながら産業界の過当競争による自然資源の枯渇を招いていると考えています。さらに忘れてはならないのは、「地球温暖化現象」でしょう。太陽からの放射エネルギーを受けて地球は常に暖められていますが、その温度を適度に保つ「温室効果ガス」は重要な役割を果たし、それが存在しない地球は、毛布をはがされたようなものです。いま、地球全体の平均気温は約十四℃に保たれていますが、温室効

果ガスが全くなかったとすると平均気温はマイナス十九℃に低下すると推定されます。極寒の天体となっていたはずですが、もしこんな過酷な環境だったら、地球の現在のようにな生命や人類の繁栄は到底ありえないでしょう。その「温室効果ガス」のバランスを破壊する原因として、メタン、フロン等の増加もありますが石油や石炭等いわゆる「化石燃料」の燃焼等による「二酸化炭素」が最大の原因と言われています。有効な温暖化対策をとった場合でも二十一世紀末(二〇八一年から二一〇〇年)の世界の平均気温は、二・六℃から四・八℃上昇し、厳しい温暖化対策をとった場合でも〇・三℃から一・七℃上昇する可能性があると予測されています。ここ数十年の「地球温暖化」による気候変動は人間の生活や「自然の生態系」に様々な影響を与えて、氷河の融解、洪水、干ばつやスーパー台風の増加、自然の生態系破壊等による食料生産や健康等人間生活への影響がより深刻な状態になると危惧されています。とりわけここ数年、アメリカ、東南アジアや日本等を襲った「スーパー台風やハ

リケーン」の増加は、「地球温暖化」の影響を顕著に受けていると言われています。せめて温室ガス削減に関する「京都議定書」に代わる「パリ協定二〇一五」の完全達成があれば、かすかな希望はありますが、アメリカ等の脱退でその達成が危ぶまれています。このような第一、二課題の原点として、あらゆる生命体を含む自然界は生命体の発生以来「生存競争」と「種族保存」のために「弱肉強食」の原理で維持されてきたことです。そして猿類から進化してきた人類は、外敵から身を守り、日常生活を豊かにするために「あらゆる道具」を考え出し、活用してきたことでしょう。その「外敵」とは、豊かに生存活動を犯すあらゆる行為であり、その概念は時代によって変化してきています。つまり人類のかかわる戦争を含む「すべての紛争」は、自然界の「弱肉強食」原則の延長上にあることです。その究極の道具が「核兵器」であり、それを使用すれば地球のあらゆる生命体は、消滅するか甚大な影響を受け生存することが不可能になることでしょう。

第三の課題の原点は、地球上のあらゆる生命体や地球自体を含むその他あらゆるものは自然なバランスを保ち、有限であり無限ではないことです。もちろん、宇宙は永遠に存在すると思われていますが、「ビックバン」から始まり、最後には半永久的に「ブラックホール」状態となり、ある意味で有限状態となると言われています。このように私達を取り巻くすべてが「自然の営み」に沿って有限であり、人類はそれらすべてのものを有効にかつ可能な限り理性的、自制的に利用することが必要です。

このように壮大な「宇宙の営み」を妨げ、破壊する行為をできるのが唯一「人類」です。いま世界は、「核兵器廃絶」と「地球温暖化阻止」を掲げて、「敬愛精神に溢れたワンチーム」となり、一歩でも前進することが、次の世代に引き継ぐ最低条件ではないでしょうか。平和で自然災害の少ない平穏な生活とバランスの取れた自然の維持がなければ、「福祉」そのものの存在意義と発展は到底望めません。予定した枚数が尽きましたので、この続きは次号といたします。

新年の挨拶

桜島学園 園長 野口 輝俊

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、つがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。保護者、地域、学校、関係機関等々の皆様には日頃から当園への温かいご支援、ご協力を賜り、ありがとうございます。皆様のおかげで、子ども、職員とともに、新しい年を迎えることができました。

昨年を振り返ると、新天皇の即位に伴い、平成の時代が幕を閉じ、新しく令和の時代になりました。また大型台風が相次いで上陸し、大きな被害をもたらした年でもありました。スポーツの分野ではラグビーのワールドカップが開催され、日本はベスト8に進出するなど快進撃を見せてくれました。当園でもいろいろなお知らせがありましたが、子どもたちは元気で、日々悪戦苦闘しながらも、確かな成長を見せてくれたことは、大きな喜びでした。

五輪は平和の祭典でもありません。世界の紛争や戦争がなくなり、平和な世界になってほしいと切に願っています。児童養護施設では、新しい社会的養育ビジョンによる社会的養育全体の見直しが進められます。不安は拭えませんが、子どもが最善の利益を享受できるように取り組んでいきたいと思っています。

今年「子年」です。私にとって回り年でもあります。思えば高校を卒業する時、担任の先生が「ネズミ「寝ず身」のように、コツコツと誠実に勤務する人になれと言われたことを思い出します。浅学非才、何の取り得もありませんが、施設が子どもたちの笑顔であふれる場所になれるよう職員とともに頑張る所存です。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひし、新年の挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。



今年はどうなるのでしょうか。我が国では五十六年ぶりに東京五輪が開催されます。

これから

和光学園 施設長 佐多 慶一

明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、健康やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年中は、和光学園への格別なご理解とご協力を賜りまして心より感謝申し上げます。

当施設は、これまで利用者様の基本的な人権の尊重と意志及び意向を踏まえ福祉サービスの提供に努め、お陰様で今年五十四年目を迎えることとなりました。その間、当施設は制度に則り少しずつではありますが成長してきました。

しかしながら、この数年間で福祉制度は措置から支援費、自立支援法、総合支援法へとめまぐるしく変化してきています。それに伴い、それを取り巻く環境は著しい変化の連続でいろいろな問題を抱えています。とりわけ当施設においても課題が山積しており、中でも一番の課題は人材の確保です。少子高齢化が進む中では、高齢者の増加に伴い、福祉サービスを担う人材が常に求められています。需要に対して追いついていません。

それは、児童福祉や障害者福祉にも大きく影響することです。確かに、福祉の仕事は内容的に

厳しい面もありますが、やりがいのある職業で社会貢献の観点から注目は集めていると思います。ただ仕事ハードであるとか、給与が安いなどマイナスイメージを払拭できないものがあります。現状において、国は職員処遇加算や介護報酬の改善を行い給与への反映を行っていますが、十分ではありません。国による大胆な対策が直ちに必要と感じます。

さて、当施設とすれば今後どのようにして人材確保するか？当然外部へのアピールや情報発信は必要ですが、それ以前に職員が危機感を持ち、一丸となり利用者様が望む魅力ある施設作りに努めるとともに、職場環境の充実を図り、地域に密着した施設作りに務める事が大事です。

今、福祉業界では施設が生き残るために人材を外国に求めることや、法人間の合併も考えられています。

しかし当施設は、たとえ制度や環境が変化しようとも、これまで同様利用者様が心豊かな生活ができるよう取り組む所存ですので、皆様方のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新年のご挨拶

桜町学園 施設長 前原 昭子

明けましておめでとうございます。皆様方には、新しい年をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。桜町学園の利用者様及び職員一同が大過なく年を越すことが出来ましたことは、皆様のご理解とご協力の賜と衷心より感謝申し上げます。

本年も旧年以上のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は台風十五号及び十九号が、千葉県はもとより全国的に広範囲にわたって甚大な被害をもたらしました。河川が氾濫して堤防が決壊した地域や突風により崩壊した家屋もあり、今なお被害が続いているようです。被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

さて、当法人が平成二十七年より鹿屋市社会福祉協議会と協働で実施している「ドライサロン事業」が、「九州・沖縄地域包括ケア大賞優秀賞」を受賞しました。ドライサロン事業は、交

通手段のない高齢者等の交通弱者に週一回の買い物等の交通手段として運転手と車両を提供し、安否確認や健康状態の把握、閉じこもり予防や孤独感の解消など、生活支援を目的として実施しております。バスの中は何時も賑やかで「皆の顔が見たくて、お喋りしたくて来たの」、「このドライブサロンがあるから免許証を返納したの」等の言葉をお聞きする時にこの事業を実施して良かったなど実感します。当初、桜町学園の一施設で始まりましたが、現在、六法人七施設と地域貢献の輪が広がり、嬉しく思っております。

これからも桜町学園は、利用者様が安心して生活できる場の提供を軸としつつ、地域の一員として、地域の幅広い福祉ニーズへの支援を、施設が持つ人的資源と施設資源を活用しながら、鹿屋市や鹿屋市社会福祉協議会、民生委員、地域の皆様と連携を図り地域貢献活動に取り組んでいきたいと考えておりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。



緊急時の心の支援

フレンドリーホームいぐま 施設長 指宿 章子

令和二年新春のお喜び申し上げます。昨年中は、色々とお世話になりました。昨年同様、今年度もご指導宜しくお願いいたします。

ここ十年間における、自然災害には目を見張るものがあります。マスコミでは、数年後、数十年後には発生するであろう南海トラフ地震発生時の災害予想について、地震の揺れ、津波の高さ、浸水地域等詳細に報道されています。身近な鹿児島県では、活火山の桜島が最近特に噴火も激しく、毎日噴火後の火山灰の処理に、多くの人が悩まされています。突然の自然災害に備え、支援対策を想定し準備しておく事で、慌てず落ち着いての対応が可能となります。災害発生時、人々の生存の生理的欲求が満たされると、次はメンタルケアも重要課題となります。

- (一)緊急支援のポイントとして
- (二)事前に災害発生時の情報収集を行う事で、被災者へ直接質問する事なく支援に入る事が出来る。
- (三)現地の人々が、どんな不安な思いでいるかを想像する。
- (四)被災地への問い合わせは最低限

にし、役立つと思われる想定可能な準備をする。

(四)準備する物

- ①宿泊が予測される場合
洗面用具等自身の身の回り品、ゴミになる物は避け、ゴミは持ち帰り自己完結型
- ②現地用名札、笛、肩掛けシヨルター等、言葉遣いは最大限の配慮
- ③服装
上着は同じ物着用、服の色(赤、黒)に配慮。

(五)当事者に会う前に災害現場の把握、地図やメモ帳の持参。

(六)謙虚な気持ちで、当事者の負担にならない様状況を察する。

(七)求めに応じて、被災者のストレス緩和には、出来るだけいつも通りの日課の中で、当事者からの求めがあれば対応に配慮する。

(八)緊急支援を終える時、緊急支援はチームで活動する事が多く、誰もがいつでも共通理解し、一貫した支援と引き継ぎが出来るよう表を作成し、支援者自身の心の整理にも繋がる。

餅原尚子氏著書参照
「生きる意味と心理支援」

瓢箪からコマ

総合サポーターセンターラン 施設長 有嶋 君夫

年の瀬にふと考えた。充実感、何によってもたらされるのだろうか？

私は、「あなた」が喜ぶ事で強く動機づけられ、仕事をしています。つまり、「あなた」の喜びが充実感につながっているのです。喜んでくれると、私は次の喜びを求めて創造します。でも、極めているわけではないのです。

極めることは細かいところに手を入れることになり、それは疲れるため一休みをしてみたいです。そしてまた、ダラダラとはじめます。

私にとつての「あなた」は保護者様であり利用者様になりまします。「あなた」が「あなた」らしく生活することが喜びの共有につながっていると感じています。

一方で「みんな」の評価がありませんが、それは、その時々々の評価で、はやり左右されるので気にしすぎないようにしています。

そこで感じたことは、この仕事⇨居場所を提供してくれた環境に対する感謝です。居場所の

中央にいる私は、周辺のおかげで「居る」事ができるといふことです。

私が私らしくいられるのは、周辺のおかげだと、周囲に対する「おかげ」の力は目に見えないのですが、見えないからといって無視するのではなく、おかげさまと言つて家族であったり、職場の職員だったり、上司だったり、私と関わりのあるすべての人たちに感謝することが大事だと気づいたので。

私の仕事がかみ合っているのは、環境と「あなた」のおかげです。うまくかみ合っているのは、極めることをせずダラダラと仕事をやっている私には、偶然なかもいれません。明けましておめでとうございませう。本年もよろしくお願いたします。



新年のご挨拶

福祉総合相談支援センターあい 管理者 宮園 正志

明けましておめでとうござ
います。今年もまた、新たな
気持ちで新年を迎えられたこ
とと思います。

先日メディアで、ある講演
家の話を聞く機会がありまし
た。その中の一部を紹介しま
す。

○会社がなくなるのは当たり

前

・総務省の統計によると、会社
を設立し十年後に残っている
確率は六・四％(百会社のう
ち九十四の会社はなくなる)

・力が強い会社が残るのではな
く、変化に対応できる会社が
生き残れる

・あのトヨタ自動車でさえ創業
時は自動織機製作所であつ
た。しかし第二代社長の豊田
喜一郎は「これからは車の時
代だ」と考え、周囲の反対を
押し切り自動車部門を設置し
た。そして今日のトヨタ自動
車がある。

○価値観の違いを理解する

・人はそれぞれ価値観が違う
(価値観は過去の経験に基づ
くものだから)
・相手との違いを、どう肯定し

受け入れるかが大切

私の中で、かなり印象に残つ
た内容です。これらの内容が、
すべて社会福祉法人に当ては
まらないかもしれませんが、
今後事業が成長していくため
のポイントとしては的を射て
いると思います。

さて、当事業所を取り巻く

環境は枚挙に暇がなく変化し
ております。改革しようとする
の気持ちや緩めるようでは、
事業所の成長は期待できませ
ん。今の時代におきまして、
現状維持は最大の危機と考え
ます。現在法人において取り
組んでいる組織改革や意識改
革が、十年後や二十年後の成
長や適応への土台になります。
こうした取り組みを維持して

いくために、変化に強い体質
をつくっていくとともに、変
化への感受性を高め、自由で
制限のない発想を肯定できる
ような環境に取り組んでいき
たいと思います。

最後になりましたが、皆様
の今年一年のご多幸とご健康
をお祈り申し上げ、新年の挨拶
といたします。

ありのまま

おひさまキッズ 施設長 鶴田 正美

世の中、感情で動いている
ことが結構多いのではない
か？最近、自分の感情を持って
余して悩んでいることもあり、
感情について勉強してみること
にしました。

『感情の仕組み』(城ノ石ゆ
かり著・実業之日本社)によ
ると、出来事が感情を起こす
のではなく、出来事をどう認
知したかによって感情が起こ
るのであり、同じ出来事に出
会っても個々人により違う感
情が起こると考えます。この
理論は「認知行動療法」の考
え方の基礎になるものであり、
出来事に対する認知・捉え方
が変われば感情が変わり、感
情が変われば行動が変わると
いう理論になります。

認知がカギを握るわけですが、その認知はその人が経験・
学習してきたもので形成され
ており、価値判断の基準にな
ります。

普段、私たちは社会生活を
送る中でストレスやマイナス
の感情を出すべきではないと
いう価値観のもと、持たない
フリをして生活しています。

都合の悪い感情をなかつたこ
とにしているのです。そのマ
イナスの感情は無意識のうち
に押し込められ「未処理の感
情」としてマグマのようにた
まっていき、その爆発しそ
うな感情を抑えるために、七割
のエネルギーを使っている
というのです。

「お子様のありのままを受け
容れてください」と保護者の
皆様に対してよく言いますが、
それが子どもの自己肯定感を
育てることにつながるからで
す。

マイナスの感情など自分の
弱い部分も含めて「ありのま
ま」を受け入れることが自分
を大事に扱うことであり、自
分を大事に出来る人が人も大
事に出来る。つまり子どもの
自己肯定感を育てるには、自
分自身を丸ごと受け入れるこ
とが必要ということになりま
す。

自分の感情を知り、受け入
れること、常に学びの姿勢を
持ち続けることで、子どもに
とって最良の環境になつてい
きたいと思います。



いろはさん



優良賞 迫田颯汰君

令和元年度

消防スケッチ大会
作品紹介

保護者並びに役職員合同研修会

令和元年12月7日、かのや大黒グランドホテルにて「社会福祉法人愛光会 保護者並びに役職員合同研修会」が開催されました。

開会式では、指宿理事長より「今年も色々ありましたが、無事に年を越す事ができそうです。特に、保護者の皆様方には並々ならぬご協力を頂き、誠にありがとうございました。来年度も宜しくお願い致します。」と挨拶されました。その後、愛光会の発展に尽力された6名の方の表彰式と、理事長へ日頃の感謝を込めて花束贈呈が行われ、研修会が始まりました。

研修Ⅰでは、「交流体験研修」を行った5名の職員が各自でテーマを設定し、普段とは異なる環境で研修を行い、新たな視点の発見や、自身の支援を見直す良い機会となったようです。また、桜島学園の山之内主任児童指導員による、桜島大噴火に伴う避難計画についての発表は、鹿児島のシンボルであり、観光にも一役買っている桜島ですが、常に危険と背中合わせであるという事を改めて認識させられました。

研修Ⅱでは、人材確保が困難な状況のなか、働きやすい職場を作り、職員の定着率を上げる事が必要と考え、無記名方式のアンケートで、法人への意見や要望を聞き取った結果の報告が行われ、研修機会の増加、資格取得時の補助、人事異動等、愛光会の発展に繋がる貴重な意見や要望が出されました。保護者様

総合サポートセンター ラン 朝隈 謙太

から「職員が相手にしているのは人間です。愛光会で働き始めた頃の気持ちを忘れずに、子どもたちの事をこれからも宜しくお願いします。」との言葉をいただき、職員一同、気を引き締め直したのではないのでしょうか。

懇親会では、あちこちで談笑する声が溢れ、東事務局長と丸田氏の歌声で更に盛り上がりました。今回学んだ事や感じた事を忘れず、1つでも自らの糧にして、今後の支援や業務に活かしていただきたいと思います。



入職から今

桜島学園 丸野 美波

入職してから2年になろうとしています。月日の流れはあっという間で、とても充実した毎日を子ども達と一緒に送る事が出来ています。1年目は男子児童を担当しましたが、2年目では地域小規模児童養護施設で女子児童を担当しています。初めは本園との違いに戸惑う事ばかりで、生活に慣れる事に精一杯でした。しかし、子どもと1対1で関わる機会も多く、一緒に買い物に行ったり、料理をしたりする中で、子ども達は学校の事や友達の話等を何気なく話をしてくれるようになりました。その中で子ども達は色々な事を感じ、考えて生活を送っているのだと実感しました。少しの時間でも「あのね」と来てくれた時は耳を傾け、話を聞く事ができるよう、心に余裕を持ち、子どもとの関わりができるようになりたいと思いました。また、子ども達の自立に向けた家庭的な支援ができるよう、そして子ども達と一緒に成長する事ができるよう今後も一生懸命頑張りたいです。

和光学園 鶴ヶ崎 涼

私は保育士専攻の短期大学卒業後、平成26年4月に入職し、早いもので気付けば約6年が経ち、令和2年4月で7年目になろうとしております。現在、和光学園には、障害者支援施設、障害児入所施設と2つの事業所が併設されておりますが、この6年間で保育士、介護福祉士の資格を活かし、児童部、成人部の業務に携わる事ができております。両施設は異なる事業所であるため、支援内容や業務内容も異なり、戸惑うことも多かったです。しかし先輩職員のアドバイスや指導の下、これまで充実した時間を過ごすことが出来ております。また利用者様への支援はもちろんの事、委員会業務や様々な研修にも参加する中で、自分のスキルアップに繋がる、多くの経験をさせていただきました。今後も利用者様が、より良い生活、安心安全な生活を送ることができるよう日々向上心を持ち、更なるスキルアップ、資格取得等に向けて1日1日を大切に過ごしていきたいと思っております。



入職から今

桜町学園 田原 仁美

桜町学園に入職し、7年半が過ぎました。介護老人保健施設での勤務経験はありましたが、利用者様への対応方法等異なる部分も多く戸惑いもあり、最初の頃は毎日が緊張の連続でした。コミュニケーションを図りながら利用者様1人1人に向き合って支援すべく、支援方法を先輩職員に習って同じように行ってみました。思い通りにいかないことが多かったです。対応に悩む日々が続きましたが、先輩職員のアドバイスのお陰で、徐々に仕事にも慣れ、利用者様との信頼関係を築けるようになったことで、ここまでこの仕事を続ける事が出来ました。振り返ってみるとあっという間の7年半でした。

桜町学園は、利用者様の高齢化や病状の進行等もあり、支援内容が段々と変化してきています。利用者様が安心して楽しい毎日を過ごして頂けるように、職員間で支援方法について協議し、研修会等に積極的に参加することで支援技術の向上を図り、また、私の介護老人保健施設での経験を活かせる場面があれば、他の職員へ伝えることで、更にレベルアップした支援を目指したいと思います。

フレンドリーホームいぐま 中園 善孝

今年の元旦で、入職してから、お陰様で11年目を迎える事が出来ました。

前職の理容師時代から、出張散髪でお世話になりご縁はあったのですが、異業種からの転職で、始めの頃は戸惑いも多く、毎日が壁であった様に記憶しています。ですが、諸先輩の心温まる励ましや助言、ご指導により、少しずつですが、その壁を乗り越えていく事が出来ました。

「10年」という歳月は、一見長くも感じ取れますが、今、この地点から振り返ると、時に刹那に感じる程短かったと思います。

私はこの仕事で、利用者様の生き甲斐を見いだし、より楽しい生活を送っていただけるよう、サポートしていきたいと思っています。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。

総合サポートセンターラン 大窪 敬博

平成25年7月1日より勤務して6年数ヶ月経ちました。事務員として勤務をスタートしたものの、不慣れな業務に悩まされ途方に暮れていたところ、有嶋施設長に所属の配置換えで救って頂き再スタートを切ることができました。

ランでは生活介護事業だけでなく、地域活動支援センター、グループホーム、ホームヘルプ等、利用者様のニーズに対応出来るよう様々なサービスでサポートをしています。また、地域貢献事業として毎週ドライブサロンを行っており、地域の方々と交流を図る良い機会となっております。多種多様な現場で機能するための支援員として、必要な知識や技術を習得出来るよう、様々な研修にも出張させて頂いています。出張先では新たな出逢いもあり、他事業所の方々と意見交換をしながら自分の支援を見つめ直し、スキルアップ出来るよう努めているところです。

現場で支援するにあたり、多くの失敗も繰り返してきましたが、ラン職員のサポートのおかげで今の自分があります。今後も愛光会に少しでも貢献できるように従事していきたいと思ひます。

福祉総合相談支援センターあい 古里 まなみ

愛光会に入職して6年が経ちました。私は事務員として未熟なため、業務を覚えることに必死で、あっという間に過ぎていった気がします。請求業務・日々の経理業務・年度の決算業務・様々な業務に取り組む中で、失敗もして不安ばかりでしたが、上司や先輩職員の方々からのご指導・助言をいただき、今があります。今、日々の業務が出来るのもあの時支えていただいたお陰だと感じ、より貢献できるよう自分自身の努力、知識と技術の向上をしていきたいと思ひます。

話は変わりますが、私は中学生の息子と小学生の娘がいます。息子に年に数回言われて、ハッとすることがあります。仕事から帰宅し、私がすごい形相で家事に追われている時、しばらくして、息子が顔を覗かせて「笑顔!笑顔!」、そう言って去っていきます。そんな時、またやってしまったと後悔と笑顔が出ます。家族を支えているようで支えられているな、と反省と感謝です。今後も皆様に感謝の気持ちを忘れず、仕事と育児と頑張ります。

おひさまキッズ 新地 憲太郎

平成21年4月、和光学園成人部に入職してから10年経ちました。これまでの経験といえば入職前にホームヘルパー資格の勉強をしたぐらいで、福祉の仕事とは関係がない仕事を行ってきました。初めは未経験の事だらけで、戸惑う日々が続きました。しかし、先輩方の丁寧なご指導や利用者様が同年代ということもあり、徐々に仕事にも慣れてきましたが、3年目の1月から児童部へ異動することになりました。

同じ施設内とはいえ、同じような支援では上手くいかず、成人と児童の支援の違いを感じました。3か月児童部にいた後、現在キッズに至ります。キッズも当初の頃より利用者様の割合や鹿屋市内の事業所が増加した事等、色々変化してきました。これまでの経験を糧とし、入職時の気持ちを思い出しながら、これからもより良い支援を目指していきたいです。

新任職員のご紹介
ニューフェイス



桜町学園
生活支援員
小島 里菜

昨年の八月に入職し、半年が過ぎました。まだまだ未熟ですので、今後先輩方から御指導をいただき多くの事を学びながら、利用者様により良い支援を提供できるように頑張りたいと思います。



和光学園
保育士
瀬戸口 ゆかり

九月より入職しました瀬戸口ゆかりと申します。利用者の皆様が喜んでもらえるような支援に努めていきたいと思えます。



おひさまキッズ
作業療法士
吉留 諒

来てくれて良かったと思ってもらえるような子ども達に寄り添った関わりを目指していきます。不慣れな点もありますが、宜しくお願い致します。



和光学園
調理員
磯脇 桂子

八月一日より調理員として働いております。皆様に美味しい食事を提供していきたいと思えます。宜しくお願い致します。

寄贈一覧 桜島学園分

(R.1.7.1~R1.11.30)

※順不同

- 総合警備保障株式会社AL SOK様
- 日本中国料理協会鹿児島県支部様
- JA 鹿児島みらい農業組合様
- 全国シャンメリー協同組合様
- 鹿児島ライオンズクラブ様
- 九州アイスクリーム協会様
- ユーコーラッキー様
- 株式会社丸庄水産様
- 中川運輸株式会社様
- 阪東機工株式会社様
- 株式会社しかや様
- 打越政継様
- 長谷川澄雄様
- 野邊朋洋様
- 松田正人様
- 山之内成子様
- 宮永珠美様
- 門司一徹様

たくさんの寄贈をいただきました。心から感謝いたします。

寄贈一覧 和光学園分

(R.1.7.1~R1.11.30)

- 株しかや様
- 佐藤食品工業(有)様
- 鹿児島県共同募金様



編集後記

明けましておめでとうございませう。皆様におかれましては、お健やかに新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。さて、愛光会だより第一〇六号が出来上がりましたのでお届け致します。昨年は台風や、各地の大雨による災害が発生し、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。自然の猛威を目の当たりにし、防災に対する意識も高まったのではないのでしょうか。そのような中でも、ラグビーW杯が我が国で開催され、歓喜に沸きました。その中で日本人の「おもてなし」も話題となり、称賛されたことは喜ばしいことです。今年はおリンピックが開催され、日本中が明るい話題に溢れる事を願っています。愛光会でも利用者の方々の笑顔が溢れ、健康でより良い生活を送って頂けるよう職員一同、頑張っていきたいと思えますので宜しくお願い致します。

(編集員一同)

行事生活一コマ



秋桜杯児童福祉施設スポーツ大会(綱引き)



秋祭り ゲストエミリーさんを迎えて



園内研修 (真実告知について)

桜島学園



秋の親子1日遠足



ハロウィン



児童部キャンプ

和光学園



クリスマス会



なかよしスポーツ大会



納涼大会

桜町学園



ファミリーレクリエーション



園外散歩



スポーツ大会

フレンドリーホーム
ついでま



なかよしスポーツ大会



社会適応訓練 (イオン都城)



社会適応訓練 (カラオケ)

総合サポートセンター
ラン



作業療法士による保護者勉強会



余暇活動・絵画



ミニ運動会

おひさまキッズ